

SHIRAKOBATO

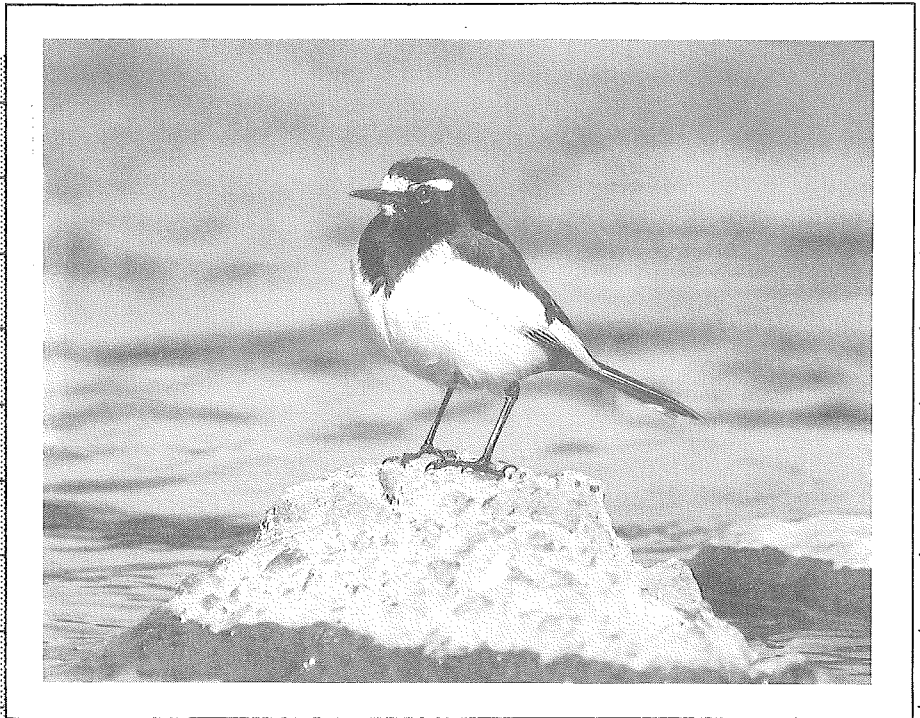
しらこぼと



1995. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 137

日本野鳥の会 埼玉県支部

頑張るおじさんたちのバードソン1995

バードソン1995が日本全国で開かれる10月8日(日)がいよいよ近づきました。埼玉県支部の公式チーム「リブラン・リフレッシュ彩の国」の応援をお願いします。

■バードソンとは

バードマラソンの事です。一定時間内に何種類の野鳥を確認できるかを競い、その種類数に応じて募金していただき、日本野鳥の会が独自に自然保護をすすめるための活動資金にあてます。

今年の具体的な活動としては、①湿地保護重点事業取りまとめ報告書作成、②国会議員などを通じた自然保護世論の高揚、③各支部や会員とのネットワーク化、④96年ラムサール条約締結国会議への準備と盛り上げ、などを予定しており、そのための野鳥保護基金の充実、1,500万円が目標です。

■募金方法は

「リブラン・リフレッシュ彩の国」チームが何種類確認できるかを予想して、1種類につきいくら募金するかをお申込みください。10月8日(日)午前6時から午後5時の間にチーム4名全員が確認した種類数に、お申込みの単価を掛けた金額を募金していただく訳です。

探鳥会でも申込みは受けつけていますが、今月号には、申込み用のはがきも同封しました。職場などで募金集めをしてくださる方には、一覧型申込書をお送りしますので、高松(TEL 048-852-7651)までご連絡ください。

申込み締切りは10月7日(土)。種類数確定後に、お申込み単価に応じた募金お支払いお願いの手紙をあらためてお送りします。

もしも、探鳥会で一度申込み、はがきでまた申込んだような場合には、お願いの手紙も重複して届く事になります。また、募金額は「予想種類数×単価」ではなく、「確認種類数×単価」です。ご注意ください。

募金者全員に参加賞、抽選で特別賞、種類数の予想が当れば、抽選でピタリ賞が贈ら

れます。

種類数に関係なく、定額の募金を申込む方法もあります。

■メンバーは

桜庭 勇(キャプテン) 写真中央

東京生れ。支部役員。自称人柄温厚チーム一の紳士。最近アメリカの野鳥に興味傾倒。

新堂克浩(記録係) 写真右から2人目

長崎生れ。支部役員。歯が少々弱くて、軟らかい物良し。流動物ならなお良し。秋ヶ瀬公園の主。野外泊得意。ビデオウィルス of 軽症保菌者。

佐藤 進 写真左から2人目

青森生れ。行動派。チーム一の若人(これで!!)。野鳥情報あれば、遠近かわらず、ネクタイのままとんで行く。なぜか昼休みが何時間もある。ビデオウィルス of 重症患者。

高松 格 写真左端

東京生れ。有言不実行派。飛ぶものは何でも好きだが、野鳥知識皆無に近く、発見速度最低。双眼鏡は骨董品。なぜメンバーになったか、不可解。

ほかに、中島康夫普及部長(写真右端)がチーム責任者兼支援ドライバーです。写真を見れば、どこかで会った事があるのではないですか。「なんだ、あのおじさん達か」なんて言わないで、応援してください。(やっぱり写真出さなかったほうが良かったんじゃない……いやいや、この写真見れば、怖がって

応援するかも……オレが良く写ってないぞ……
……そりゃ無理だ……がやがやがや……)

■目標種類数は

前回、前々回の確認種数は、73種、72種。

しかし、今年は1時間短縮されて11時間になり、開催時期も今までより1ヶ月早くなりました。しかも、今年のチームは、口は達者でも脚の方が？

94.10.9の渡良瀬遊水地(35種)、同日の大麻生(37種)、92.10.18の三室(37種)の探鳥会記録などをひっくり返して見ると、まず50種は見られるでしょう。この時期県内で見られる可能性があるのは更に30種として、その5割程度はなんとか。

$50 + 30 \times 0.5 = 65$ 種。これを目標種数とします。

8月号で述べた様に、今回のチームは募金者数と募金額を主眼に楽しく活動しますが、少しでも好成績を残すためには、直前の野鳥情報が必要です。電話やFAXで、情報中継基地の支部事務局、または高松までご一報ください。

■出陣式までしちゃって

1週間前の10月1日(日)の北本市石戸宿定例探鳥会では、なんと、PRのための出陣式までやっちゃいます。

桜土手の下で豚汁サービスもあります。体型が似ているかどうかは、全く関係ありません。ただおいしいから食べるのです。安心してご参加ください。

■当日の行動予定は

当日10月8日(日)は、支部探鳥会開催地を主体に、次の3ヵ所を車で移動します。チームと同行してサポートしてくださる方、怖いもの見たさの方、なんでも歓迎です。

1, 午前6時～8時30分 北川辺町・渡良瀬遊水地

県内有数の水鳥飛来地ですので、水鳥を探すのは当然ですが、特にミサゴ、チョウゲンボウ、チュウヒをねらうつもりです。事情に



よっては、ミカモ山、または小山市方面に足を延ばします。早起きに自信のある方の応援を期待しています。

2, 午前10時～正午 熊谷市・大麻生

10月は渡りの最盛期。毎年訪れる鳥達に会えるのが楽しみです。過去の探鳥会記録によりますと、ツツドリ、ホトトギスも出ています。このへんをねらいます。河原でイカルチドリも探します。

定例探鳥会に合流しますので、絶大なるご支援をお願いします。

3, 午後2時～午後5時 浦和市・三室

ここも大麻生と同様に古くからの定例探鳥会開催地です。今回は特別探鳥会が開催されますので、これに合流します。

秋の田んぼに稲穂が揺れ、カモ達が帰って来て、ツグミ、ジョウビタキも姿を見せることでしょう。

ここで打ち上げにします。せっかく出陣式をするのだから、打ち上げ式もしたいものです。

予定は以上のとおりですが、鳥や交通の事情によって前後する事もあります。当日の問い合わせは、情報中継基地の支部事務局までお願いします。

本番がちゃくちゃくと近づく毎日、チームメンバー一同、体調を整える為に、流動物などを十分に摂取して準備中です。

(高松格広報担当者の原稿を、編集部で勝手に大幅に書き換えました。)

1995年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日 時：1995年4月29日

* 9:30～11:30 大久保農耕地

* 8:40～ 9:00 入間川

天 候：晴

4月29日に埼玉県内のシギ・チドリ類の一斉調査が行われました。この日は東日本は、北海道のはるか東に中心のある高気圧に覆われ、まずまずの天気となり、支部会員24名の協力が得られました。ご苦労さまでした。

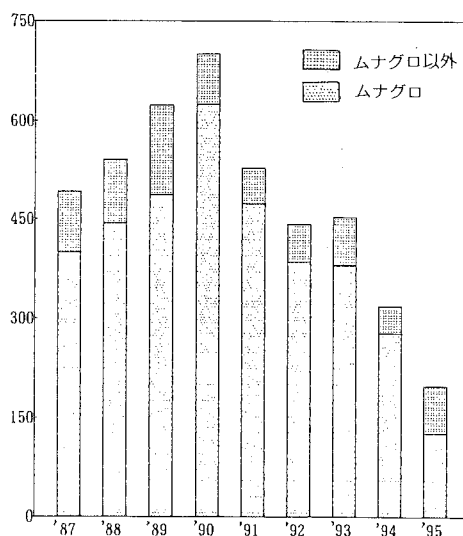
観察された鳥類・個体数は8種202羽で、昨年の春と比較すると種数で7種、個体数で171羽少なくなっています。これは、大久保農耕地でムナグロが150羽少なくなったのに加え、増水のため利根川での調査ができなかったことが大きな原因です。

グラフは春のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数をまとめたものです。ムナ

グロ以外は変化が少ないことがわかります。

(石井 智)

大久保農耕地における個体数の変化



1995年春 シギ・チドリ類調査結果

調 査 地	大久保農耕地 浦和市/大宮市			入間川:狭山市 (豊水橋～新高士見橋)			利根川:本庄市 (阪東大橋下流)		
	'93年	'94年	'95年	'93年	'94年	'95年	'93年	'94年	'95年
鳥 類									
コチドリ	—	—	7	1	1	1	16	11	
イカルチドリ	—	—	—	1	—	—	8	4	
シロチドリ	—	—	—	—	—	—	14	8	
メダイチドリ	—	—	—	—	—	—	1	—	
ムナグロ	381	277	127	—	—	—	1	—	
ダイゼン	—	—	—	—	—	—	1	—	
キョウジョシギ	—	2	1	—	—	—	—	—	
トウネン	—	—	—	—	—	—	1	—	
ハマシギ	24	1	—	6	—	—	138	3	
アオアシシギ	7	3	—	—	—	—	2	—	
クサシギ	—	—	—	—	—	—	2	1	
タカブシギ	6	13	25	—	—	—	—	—	
イソシギ	—	—	—	6	—	2	17	9	
チュウシャクシギ	13	12	11	—	—	—	—	3	
タシギ	21	10	26	—	—	—	3	—	
ジシギSP.	2	1	2	—	—	—	—	—	
アカエリヒレアシシギ	—	—	—	—	—	—	—	9	
ツバメチドリ	—	—	—	—	—	—	—	5	
個 体 数 合 計	454	319	199	14	1	3	204	53	—
種 類 数	7	8	7	4	1	2	12	9	—

"Japanese"が頭につく鳥たち(2)

"Japanese"が頭につく鳥が全部で18種類、その内日本固有種が3種。あとの15種は日本固有種ではないが、かなり「日本」と密接な関係があり、鳥名に"Japanese"が冠せられたと書きましたが、正にその通りで確立された命名法に基いている訳ではなく、類似した多くの鳥の中で特に日本的なものに"Japanese"がつけられたようです。

トキ (Japanese Crested Ibis) など、学名 "Nipponia nippon" から考えても純粋に日本固有のものとする思っていました。中国や朝鮮半島に全く同一種が現に棲息しております。また、マダガスカルトキ (Crested Wood Ibis) というIbisがいるので、それとの区分を明らかにするため"Japanese"がつけられたのではないのでしょうか。

メジロ (Japanese White-eye) は世界の鳥の中では80種もの"White-eye"という鳥がいるのです。アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、フランス等が頭についており、日本を中心とするものに"Japanese"をつける正当な理由があると思います。

要するに、日本固有種の3種 (アオゲラ、セグロセキレイとカヤクグリ) をバッチリと覚え、あとの15種はそれなりに日本に密接な関係があって"Japanese"がついているんだ、と理解した方が悩まなくて済むのではないのでしょうか。勿論、「何故」をとことんまで追究するのはまた楽しい勉強でやり甲斐のあることですが、それは限られた人の研究にお任せしましょう。

釧路探鳥記録

榎本秀和 (鴻巣市)

6月23日夜から釧路航路フェリーで北海道に行ってきました (帰りは飛行機)。乗客も少なく、「榎本さんが来ると船が出ない」という憎まれ口を封じるには充分過ぎるぐらい快適な船旅で、大いに洋上探鳥を楽しむことができました。

特にクロアシアホウドリが、朝から夕方まで通算100羽以上見られたのには、驚きました。三宅島航路だと1羽出るか出ないかですから、私の心の中のクロアシアホウドリの値打ちは大暴落です。

北海道に上陸してからは、レンタカーで霧多布や釧路を回ったのですが、私は夏の北海道は初めて (冬も1回しかありませんが...) で、何と5種も増やしてしまいました。

今回のツアーに味をしめて、機会あるごとに釧路航路フェリーを使って見たいと思っております。

ツアー中見られた鳥は、次の通り。

カイツブリ コアホウドリ クロアシアホウドリ オオシロハラミズナギドリ オオミズナギドリ アカアシミズナギドリ ハイイ

ロミズナギドリ ハシボソミズナギトリ クロコシジロウミツバメ オーストンウミツバメ クロウミツバメ ウミウ ヒメウ コサギ アオサギ トビ ノスリ チュウヒ エゾライチョウ タンチョウ チュウシャクシギ オオジシギ オオセグロカモメ ワシカモメ ウミネコ ケイマフリ キジバト カッコウ ツツドリ ハリオアマツバメ アマツバメ ヒメアマツバメ アリスイ コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コマドリ ノゴマ コルリ ノビタキ ウグイス エゾセンニュウ シマセンニュウ マキノセンニュウ コヨシキリ エゾムシクイ センダイムシクイ セッカ キビタキ オオルリ ハシブトガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (69種)

同行者は小淵健二、斉藤比佐実、逸見嶮の各氏。6月24日房総沖から三陸沖、25日釧路、霧多布、厚岸、26日厚岸、釧路、浦幌、帯広という行程でした。

ツツ子
ツツ子
ツツ子

野鳥情報

ヨシゴイ ◇7月14日、川越市の伊佐沼、西よりの中洲の西日が当る一角でアシの根方と、茎につかまると、各1羽。じっと動かず(中司隆由)。◇8月2日、幸手市木立の中川で1羽(秋間利夫)。

ゴイサギ ◇6月18日午後4時30分頃、飯能市の浄化センター付近の入間川で1羽。雨の日や曇っている日によく見られます(藤森三治・恵美子)。◇7月14日、川越市の伊佐沼で幼鳥1羽。アイガモにつつきかかる(中司隆由)。◇8月2日、幸手市木立の中川で10羽(秋間利夫)。

ダイサギ ◇8月2日、幸手市木立の中川で1羽(秋間利夫)。

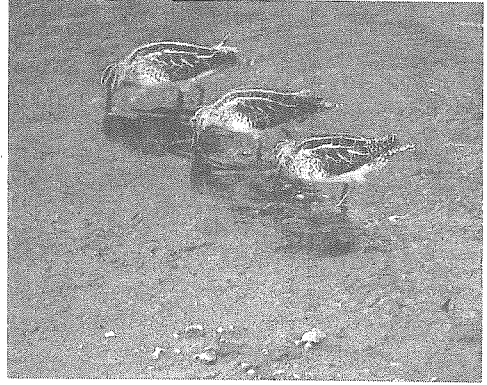
チュウサギ ◇8月2日、幸手市木立の中川で1羽(秋間利夫)。

アオサギ ◇8月2日、幸手市木立の中川で1羽(秋間利夫)。

カルガモ(白化) ◇8月2日、幸手市木立の中川で20羽の群れの中に白化個体1羽(秋間利夫)。

トビ ◇7月23日、富士見市水子の柳瀬川左岸で1羽(中村治)。

ツミ ◇6月24日、毛呂山町で幼鳥5羽。この日、3羽巣立ちし、2羽はまだ巣の中。25日、同所で♀親に20数回も頭上スレスレに威嚇攻撃を受け、ヒッチコック映画「鳥」のシーンを思い出した(増尾隆・節子)。◇7月6日、上尾市で幼鳥2羽と親鳥。コナラの枝に幼鳥2羽巣立ち。親鳥はヒノキの枝で常に見張り、カラスなどが近づくと「キイキイ」鳴きながら、体当たりで撃退を続けています(小貝喜久司)。



(タシギ 中司 隆由)

チョウゲンボウ ◇7月16日、富士見市水子の柳瀬川左岸で1羽(柳瀬川自然観察会)。

オオバン ◇7月14日、川越市の伊佐沼で1羽。なぜか羽づくろい中のアイガモ1羽を気にして、周りを執拗に泳ぐ(中司隆由)。

コチドリ ◇8月2日、幸手市木立の中川で1羽(秋間利夫)。

イソシギ ◇8月2日、幸手市木立の中川で1羽(秋間利夫)。

コアジサシ ◇5月19日、川越市の伊佐沼で餌をくわえて飛んできた1羽が、水面上の杭にとまったもう1羽に、餌を口渡しする(中司隆由)。

カッコウ ◇6月2日、富士見市鶴瀬の自宅、早朝の寝床の中で鳴き声を聞く。今季初認(中司隆由)。

アオゲラ ◇6月24日午前7時、北本市下石戸上の自宅のすぐ近くの市の非常放送塔のてっぺんの金属のふたで、♂1羽が一所懸命ドラミング(吉原俊雄・早苗)。

コヨシキリ ◇6月28日、熊谷市の大麻生川原で1羽(逸見嶮)。

表紙の写真

『気ままにバードウォッチング』掲載作品

セグロセキレイ (セキレイ科)

どこの河原に行っても普通に見られるこの鳥は、実は日本固有種で、日本でしか見ることのできない珍鳥らしい。

それならば、というわけでもないが、以前からきちっとした写真を撮っておこうと思

ていた。

少しずつぐりになってしまっていて、セキレイらしさにやや欠けるが、まあこれはこれで可愛らしくていいかな。

登坂久雄 (八王子市)

兵庫県支部からの手紙

野の鳥達の子育ての季節も終わり、梅雨の合間に、暑い夏空が顔を見せる候となりました。

この度の阪神大震災で被災した当支部に対し、心温まる義援金をお送りいただきましたことを心よりお礼申し上げます。

日本野鳥の会の全国の会員の方々、全国の支部殿より多額のご援助を頂き、新たな事務所に移転し、本年度より例年と同様の活動計画を立てる事が出来ました。

ただ、被災地があまりにも広く、支部会員の方々の被災状況が完全に把握できていないのが現状で、その対処に追われております。

頂きました義援金につきましては、支部活動の復興と、被災された支部会員の方々へのお見舞いに使わせていただいております。

詳細な義援金の使途等につきましては、野鳥誌によりご報告させていただく予定になっております。

支部事務局担当の交替もあり、お礼のご挨拶が遅くなりましたことをお詫び致します。

平成7年7月

〒650 神戸市中央区相生町4-2-23

たからやビル3F

日本野鳥の会兵庫県支部

ごめんなさいコーナー

8月号4ページ、7年度予算の家賃960,000円は、960,000円の間違いでした。

10ページ年末講演会の講師加藤幸子さんは直木賞作家ではなくて、芥川賞作家です。

お詫びして、訂正します。

はみだし行事案内

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月1日（日）

集合：午前9時 浦和市くらしの博物館民家園駐車場（浦和越谷線、念仏橋バス停前）

交通：JR浦和駅西口バス1番乗場、さぎ山公園行き8:32発、または大崎園芸植物園行き8:24発に乗車、念仏橋下車

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、工藤、笠原、渡辺（光）

見どころ：新登場！ 年五回開催する定例探鳥会。見沼たんぼのほぼ中央に開園した民家園周辺を、季節ごとにコースを変えて巡ります。今回は秋の渡り鳥を求めて《差間コース》を歩きます。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）

期日：10月21日（土）～22日（日）

集合：21日午前10時、JR長野駅改札口前

交通：特急「あさま1号」（上野7:00→大宮

7:22→高崎8:10→長野9:51着）または普通電車（高崎7:13→長野9:27着）

費用：10,000円の予定（1泊3食、現地バス代、参加費、保険料など）。ほかに往復の交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、県支部会員優先）

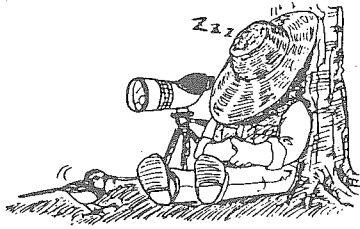
申し込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、年齢、性別を明記の上、菱沼一充（ ）まで。

担当：菱沼、伊藤、岡安、北川

見どころ：野鳥、紅葉、きのこ、そば、地酒。去年は異常気象で紅葉が大幅に遅れましたが、今年は紅葉のまっさかりのはず。キビタキなどの夏鳥とアトリ、マヒワなど冬鳥の競演、マミチャジナイ、ムギマキなどの旅鳥を探す旅です。

注意：男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：9月2日(土)

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：9月3日(日)

◆ 上記の行事は8月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月10日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車
担当：菱沼(一)、森本、小池、田口、菱沼(洋)、齊藤、中島(章)、和田、石井(博)

見どころ：秋の渡り鳥たち。まだまだ暑い日が続きますが、頬をなでる風は爽快です。ショウドウツバメ、コサメビタキ、シギ、チドリなどが秋の一日を大麻生で過ごしていきます。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月10日(日)

集合：午前9時 東武鉄道越生線川角駅前
交通：東武東上線川越8:12→坂戸にて越生線乗換8:41→川角8:50着、または寄居7:43→小川町乗継坂戸8:25発に乗車。
担当：石井(幸)、高草木、岡野、青山、久保田、藤掛

見どころ：川角育ちのツバメもすっかり大き

くなり、青空のもとでスイスイと飛び回り、南へ帰る準備をしているようです。そんな鳥達を見送しましょう。

シギ・チドリ類県内一斉調査

期日：9月15日(金・祝)

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自のシギ・チドリ類の県内一斉調査を行っています。とくに下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願い致します。

◆秋ヶ瀬(浦和市・大宮市)

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角
近くの土手の上、グラウンド入口。
担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査の為参加費は不要です。雨天でも行います。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月17日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、伊藤、若林、岡部、倉林、嶋田、兼元
見どころ：三室は普通の鳥をじっくりみるところ。緑の空間、斜面林、代用水、見沼たんぼを味わうところと知っていても、やっぱり会いたい鳥がいます。例年9月には斜面林の高い梢にエゾビタ

キが羽を休め、昨年は、ツツドリ、コムクドリ、カワセミにも逢えました。どうぞ楽しみにおいでください。

寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月23日（土・祝）
集合：午前9時10分 秩父鉄道寄居駅北口
交通：秩父鉄道熊谷8:22発、または御花畑8:19発、東武東上線川越7:55発→小川町乗継で、寄居駅下車
担当：田口、小池（一）、林（滋）、菱沼（一）
見どころ：子育てを終え南に渡るタカ達に逢えるハイキング気分の探鳥会。サシバ、オオタカ、ノスリなどが期待できます。山頂で見上げる大空にタカの雄姿、足腰のつかれも吹っ飛びますヨ。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：9月24日（日）
集合：午前8時 JR浦和駅西口バスロータリー、集合後バスで現地へ
担当：福井、楠見、伊藤、小林（み）、笠原、嶋田、羽石、倉林
見どころ：刈り入れの終わった大久保農耕地。たんぼにムナグロ、タシギなどの群を見ながら、あぜ道を歩けば旅の途中の“思わぬ鳥”との出会いがきっとある！

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月24日（日）
集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口
交通：西武新宿線8:45発、または本川越8:43発に乗車
担当：長谷部、三田、石井（幸）、高草木、小野、中村（祐）、山本、藤掛
見どころ：季節の移り変わりは、何事につけても趣が深い。渡りの鳥との予期せぬ出会い、何かと期待のかかる稲荷山公園です。さあ探してみましよう！

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月30日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

野鳥写真クラブ定例会

とき：9月30日（土）午後2時～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

夕方の渡り調査

期日：10月1日（日）
恒例の調査です。一日空を眺めているだけで、貴重なデータが得られます。初めての方でもお気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中止。この場合10月8日に延期します。調査のため参加費は無料です。

◆天覧山（飯能市）

集合：午前9時から正午まで、ご都合のよい時間に山頂展望台へお越し下さい。
交通：西武池袋線飯能駅から徒歩30分

担当：佐久間

他に下記の地点で調査します。

◆鐘撞堂山（寄居町）：山頂

◆堂平山（都幾川村）：天文台下の駐車場

◆物見山（東松山市、鳩山町）：山頂展望台
調査時間は朝から正午過ぎまで。お近くの方、ご都合のよい時間にお手伝い下さい。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月1日（日）
集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場、または午前8時15分JR高崎線北本駅改札口、集合後、タクシーで現地へ。リーダーの指示によって分乗してください。

担当：岡安、吉原、内藤、榎本、永野（安）、永野（京）、川那部

見どころ：サシバに「来年も戻ってこいヨ」、カケスやキツツキに「ようこそ」と交わすことばの足元に、ツリフネソウの群落、高尾の池にミズオオバコの花。心に描いたイメージ通りの探鳥会が必ず実現する！

◆行事案内は7頁にも掲載しています。新探鳥コースや、県外探鳥会などの案内です。

行事報告

4月29日(土) シギ・チドリ類県内一斉調査
ボランティア: 24人

阿久澤キクエ、阿久澤廣、阿部やす子、石井智、伊藤芳晴、海老原教子、海老原美夫、久保田忠資、倉林宗太郎、佐久間博文、佐藤進、竹内設雄、中村榮男、福井恒人、増田裕司、三田長久、箕輪左知子、箕輪眞澄、宮城忠好、宮田時規、若林和子、若林正徳、渡辺喜八郎、渡辺光行 ㇿㇿ 秋ヶ瀬と入間川で調査が行われました。ご苦労様でした。

5月20日(土) 栃木県 奥日光
参加: 58人 天気: 晴

マガモ カルガモ トビ キジバト アカゲラ
コゲラ キセキレイ モズ アカモズ カワガラ
ス ミソサザイ コルリ ノビタキ アカハラ
ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ セン
ダイムシクイ キビタキ エゾビタキ エナガ
コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ
アオジ ニュウナイスズメ ムクドリ カケス
ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 中禅寺
湖周辺では桜が咲き、ヤシオツツジの花が満開だ
ったが、戦場ヶ原付近では、木々の芽がようやく
吹出したところだった。スタート直後、ニュウナ
イスズメがよく見られ、アオジやノビタキも次々
に現われた。青木橋で昼食後、湯滝に向かった。
途中ではコルリやミソサザイ、キビタキも何度か
見られた。(中島康夫)

5月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 11人

赤塚義正、荒木恒夫、入山 博、江波 功、海老
原教子、海老原美夫、門谷直樹、藤野富代、松元
達夫、安原久子、渡辺喜八郎

5月27~28日(土~日) 長野県戸隠・飯綱高原
参加: 36人 天気: 晴

カイツブリ アオサギ カルガモ トビ ノスリ
キジ オオジシギ キジバト ジュウイチ カッ
コウ ツツドリ ホトトギス アマツバメ アオ

ゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ
キセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ
ミソサザイ コルリ クロツグミ アカハラ ウ
グイス オオヨシキリ センダイムシクイ キク
イタダキ キビタキ オオルリ コサメビタキ
エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカ
ラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ ノジコ
アオジ クロジ カワラヒワ ウソ イカル ニ
ュウナイスズメ スズメ コムクドリ ムクドリ
カケス オナガ ハシボソガラス (54種) バスを
降り、すがすがしい高原の空気を思い切り吸い込
む。天気は上々で、少し汗ばむくらいだ。新緑の
一の鳥居苑地を散策する。カラやアカゲラを観察
した後、雄大な戸隠山と雪をいただく北アルプス
の山々を見ながらの昼食後、別荘地を抜けて大座
法師池に向かう。大谷湿地原ではノジコがじっく
り見られた。早朝の探鳥ではオオジシギのディス
プレイフライトが見られたが、ちょっと迫力不足
だった。植物園ではキビタキ、コルリがよく見ら
れた。朝食後、鏡池まで足を延ばした。鏡池から
の戸隠山はまさに絶景。早くも秋の探鳥会が話題
となる。なるべくオープンネストの観察は控えた
いが、道のすぐ上で営巣しているコサメビタキや
サンショウクイの巣にはどうしても目がいつてし
まう。そうこうしているうちに奥社に行く時間が
なくなってしまった。なかばオオルリはあきらめ
かけたが、牧場への途中で我々の前を行ったり来
たりして大サービスしてくれた。(菱沼一充)

5月28日(日) 大宮市 深作川遊水池
参加: 22人 天気: 曇

カイツブリ カワウ アマサギ ダイサギ コサ
ギ アオサギ カルガモ キジ バン コチドリ
イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキ
レイ ヒヨドリ コヨシキリ オオヨシキリ セ
ッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ
ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 緑一面
の水田と遊水池のアシ原の周辺を一周した。アシ
の先端で鳴くオオヨシキリとコヨシキリがよく見

られた。あぜ道で餌をとるアマサギが見られたのが今回のハイライトだった。(中島康夫)

5月28日(日) 川口市 差間

参加:23人 天気:晴

カワウ アマサギ コサギ カルガモ チョウゲンボウ キジ バン キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(25種)鳥合わせの時に、「朝の下見では見られたのですが……。」という話をよく聞きますが、この日は下見では見られなかったカッコウ、セッカをじっくりと観察することができました。さわやかな好天の下、野辺は緑一色。すっかりと夏の装いが整っていました。(手塚正義)

5月28日(日) 狭山市 入間川

参加:41人 天気:晴

ゴイサギ ササゴイ コサギ カルガモ トビ コジュケイ イソシギ キジバト カッコウ ホトトギス カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ メボソムシクイ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ イカルスズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス(29種)平地の夏は、冬に比べて鳥の種類は少ないが、繁殖期の鳥たちの生活が観察できて大変興味深い。入間川の中州では、イソシギが子育て中。イワツバメは巣材集めで忙しく、セッカやホオジロも盛んに囀っている。みんなガンバレ!野鳥の会がついている。(長谷部謙二)

6月4日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加:12人 天気:曇

カワウ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ カルガモ ハシビロガモ ノスリ キジ バン コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ モズ ウグイス コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(26種)見渡す限り緑一色の広大なアシ原。あちこちから聞こえるオオヨシキリとコヨシキリの混声合唱。バックコーラスのカッコウの声。姿と声を堪能できた。6月の渡良瀬はオオヨシキリ、コヨシ

キリ、カッコウの3種に尽きる。(中島康夫)

6月4日(日) 大滝村 三峰神社

参加:21人 天気:曇後雨

キジバト ジュウイチ ツツドリ ホトトギス ハリオアマツバメ アマツバメ アカゲラ コゲラ イワツバメ キセキレイ ミソサザイ コルリ クロツグミ ウグイス キビタキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カケス ハシブトガラス(24種)一般の参拝客が多くてあまり鳥が現われなかったが、アカゲラやキビタキを十分に見ることができてほっとした。参加者の皆さん、雨の中ご苦労様。(田口浩司)

6月4日(日) 北本市 石戸宿

参加:27人 天気:曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ カルガモ カモSP コジュケイ キジ バン キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(28種)カッコウが鳴き声だけでなく、我々の頭上を飛んでその姿を披露してくれて、皆大満足。高尾の森前のアシ原にとまったゴイサギは、目までよく見えた。荒川の河川敷では、のんびり歩くキジの姿が見られた。北里の池には常連カワセミが出現した。(岡安征也)

6月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加:59人 天気:晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ サシバ キジ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ モズ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(27種)昨年秋に評判の良かった押切から大麻生河原までの河川敷のコースを歩いた。枯れ木でコゲラやモズを観察し、セッカやオオヨシキリもたっぷり見られたが、お目当てのカッコウは姿も声もなく、リーダーは少しあせていた。しかし、河川敷でコヨシキリが囀っているのが見られた。コヨシキリはこの探鳥会では初記録であり、非常にラッキーであった。(菱沼一充)

連絡帳

■バードフォトコンテスト1995作品募集

〔作品対象〕 県内に生息する野鳥の生態
〔規格〕 明らかに県外の撮影と分かるものや
組写真・パノラマ写真は不可。35mmのネ
ガまたはポジ（スライド）に限ります。

〔募集期限〕 9月15日まで

〔応募資格〕 当支部会員のみ

〔応募方法〕 キャビネくらいのプリントに、
種名と20字×10行位のコメントを添え、
ネガまたはスライド原版と共に、支部事
務局まで。種名と別にタイトルも可。

〔選考方法〕 役員会で審査、30点入選。

〔作品取り扱い〕 プリントはお返しできませ
ん。ネガまたはスライド原版は、1年後
にお返しします。入選作は今年も11月に
予定しているパネル展で展示するほか、
すべての応募作品は『しらこぼと』の表
紙やカットなど、さまざまな支部活動に
1年間使用させていただきます。

〔ご注意〕 マナーに反する方法で撮影された
作品は、一切受け付けません。

昨年は『気ままにバードウォッチング』用
に種類を限定しての募集でしたから、2年分
たまっているでしょう。お待たせしました。
今年は野鳥部門だけの募集です。期間が短く
て申し訳ありません。至急お送りください。

■夏山机上講習会で野鳥の講義

夏山シーズンを前に、6月27日（火）、県
内の高校山岳部の顧問と生徒約 300名が集ま
って、夏山机上講習会が開催されました。そ
の席上、自らも高校山岳部の顧問をしている
北川慎一幹事が、夏山で見られる野鳥につい
て、スライドを交えて講義しました。

■本部の写真展

タイトル：守りたい日本の風景—身近な自然
と野鳥（WILD BIRD CALENDER 1996）

日時：9月15日（金）～24日（日） 午前10
時～午後8時 20日（水）定休

場所：日本野鳥の会バードショップ（目黒区

自由が丘2-3-12サンクスネイチャー2階）
内容：1996年度版日本野鳥の会オリジナルカ
レンダーに採用された13点をパネル展示。

■第9回コニカパッケージエイド受付中

コニカフィルムの上ぶた（ロータスクーポ
ンの付いていない面）を切り取ってお送りく
ださい。1枚につき20円がコニカからタンチ
ョウサンクチュアリ基金に寄付されます。

送り先：085-12北海道阿寒郡鶴居村中雪裡南
鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ「パ
ッケージエイド」係

受付期間：11月30日まで

■9月の土曜日当番（2時～6時）

2日 篠原東彦 岡安征也

9日 渡辺孝章 永野安彦

16日 山部直喜 海老原美夫（編集会議）

23日 高草木泰行 笠原伸子（校正の日）

30日 袋づめの会（1時から）

■会員数は

8月1日現在 2,691人です。

活動報告

7月8日 研究部会議。

7月16日 役員会議（司会：海老原美夫、各
部の報告・リーダー研修会・写真コンテス
ト・秋のパネル展・その他）。

7月18日 三種郵便の定期監査手続きに浦和
中央郵便局に（事務局）。

編集後記

ヘクソカズラの花をよく見かける季節です。
こんな可愛い花にこんな名前はヒドイという
人もいるようですが、私は好きです。「へ」
だけでは物足りないのか「クソ」まで持って
きておいて、いきなり優雅な「カズラ」。こ
のミスマッチ感覚、実にナイスですよ。……
よしよし、山部編集長の代理として恥ずかし
くない、美しい編集後記も書けたし、後はピ
ール飲んで寝るだけだ！（代走・小林みどり）

『しらこぼと』1995年9月号（第137号） 定価 100円（会員の購読料は会費に含まれます）
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社（本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）

再生紙使用